

2024年度

「授業評価アンケート」の結果
および評価報告書
(前期)

北海商科大学

目 次

I. 授業評価アンケートの実施について	3
1. 授業アンケート調査実施の趣旨	3
2. 調査の実施方法	3
3. アンケート回収結果	3
4. アンケート調査項目	4
5. 調査結果の集計・分析と授業改善に向けた結果の活用について	6
6. 教員返却用集計フォーム	8
II. 集計結果について	10
1. 全科目の単純集計結果について	10
2. 各科目カテゴリーの単純集計結果について	13

I. 授業評価アンケートの実施について

1. 授業アンケート調査実施の趣旨

大学教育の質的向上を図るため日常的に教育活動の点検・評価を実施し、その成果と到達点を検証して改善に努めることは、こんにちあらゆる大学に課せられた社会的責任となっています。本学でもそうした社会的要請に応えるべく、教育方法改善委員会のもとで2009年度より継続して調査・点検が行われてきました（2020年度は新型コロナウイルス感染症により異なる方法にて実施）。

この調査の目的は、各授業の成果・効果・到達点、さらに改善点などについて、学生から提供された授業の評価データを全科目、科目カテゴリー、教員個々を単位にして集計・分析し、結果を授業の自己点検・自己評価、授業改善のための参考資料として活用することにあります。このたび2024年度前期開講科目に関する調査結果がまとまりましたので、ここに報告いたします。

2. 調査の実施方法

- (1) 調査方法：manabaを利用したアンケート調査
- (2) 調査期間：2024年7月10日（水）～8月3日（土）
- (3) 調査対象：開講全科目・全学年の授業（専任・非常勤を含む全ての授業）。
ただし、履修者2名以内の科目は除く。
- (4) 調査内容・形式：全科目カテゴリー共通の調査票でアンケートを実施。「学生の行動」「授業手法・教員の行動」「授業内容」「教育効果」などに関する「選択式回答13項目」「自由記述回答2項目」で回答を得る。

3. アンケート回収結果

アンケート回収結果は、表1の通りです。

表1 授業アンケート実施状況

授業科目カテゴリー	(A) 対象 クラス数	(B) 実施 クラス数	(C) 実施率 (B/A)%	(E) 対象クラ ス受講者数	(F) 実施クラ ス回答者数	(G) 回答率 (F/E)%
(1) 異文化交流科目（語学）	18	18	100	263	222	84.4
(2) 異文化交流科目 社会と文化 （社会文化ゼミナール）	9	9	100	189	180	95.2
(3) 異文化交流科目 社会と文化 （社会文化ゼミナール以外）	16	16	100	867	709	81.8
(4) 専門基礎科目	16	16	100	706	563	79.7
(5) 専門関連科目	25	25	100	1,602	1,016	63.4
(6) 商学科専門科目	17	17	100	489	229	46.8
(7) 観光産業学科専門科目	15	15	100	231	119	51.5
(8) 専門キャリアアップ科目	15	15	100	325	174	53.5
(9) 教職に関する科目	10	10	100	133	79	59.4
合 計	141	141	100	4,805	3,291	68.5

4. アンケート調査項目

- Q1. この科目の一週間の平均的な学習時間（予習・復習）はどれくらいですか？（選択必須）
- 5 4時間以上
 - 4 2時間～4時間未満
 - 3 1時間～2時間未満
 - 2 1時間未満
 - 1 全くしていない
- Q2. この科目の授業にどれくらい出席していますか？（オンライン授業については、課題を学習した場合は出席したと考える。）（選択必須）
- 5 全て出席
 - 4 9割程度
 - 3 7割程度
 - 2 5割程度
 - 1 4割以下
- Q3. この科目の授業に積極的に臨めていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない
- Q4. この科目の授業内容を理解できていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない
- Q5. この科目の到達目標を知っていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない
- Q6. この科目の成績評価の方法・基準を知っていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない
- Q7. この科目の授業内容はシラバスに沿って行われていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない

Q8. この科目の難易度についてどう思いますか？(選択必須)

- 5 高すぎる
- 4 高い
- 3 ちょうどよい
- 2 低い
- 1 低すぎる

Q9. 担当教員はこの科目への積極的な参加や自発的な学修を促すように工夫していますか？(選択必須)

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

Q10. 担当教員は質問や相談の対応およびフィードバックを適切に行っていましたか？(選択必須)

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

Q11. この科目の受講を通して、解決すべき課題を自ら見出せるようになったと感じますか？(選択必須)

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

Q12. この科目の受講を通して、自らの考えを持てるようになったと感じますか？(選択必須)

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

Q13. この科目の総合評価を5段階で選択してください。(選択必須)

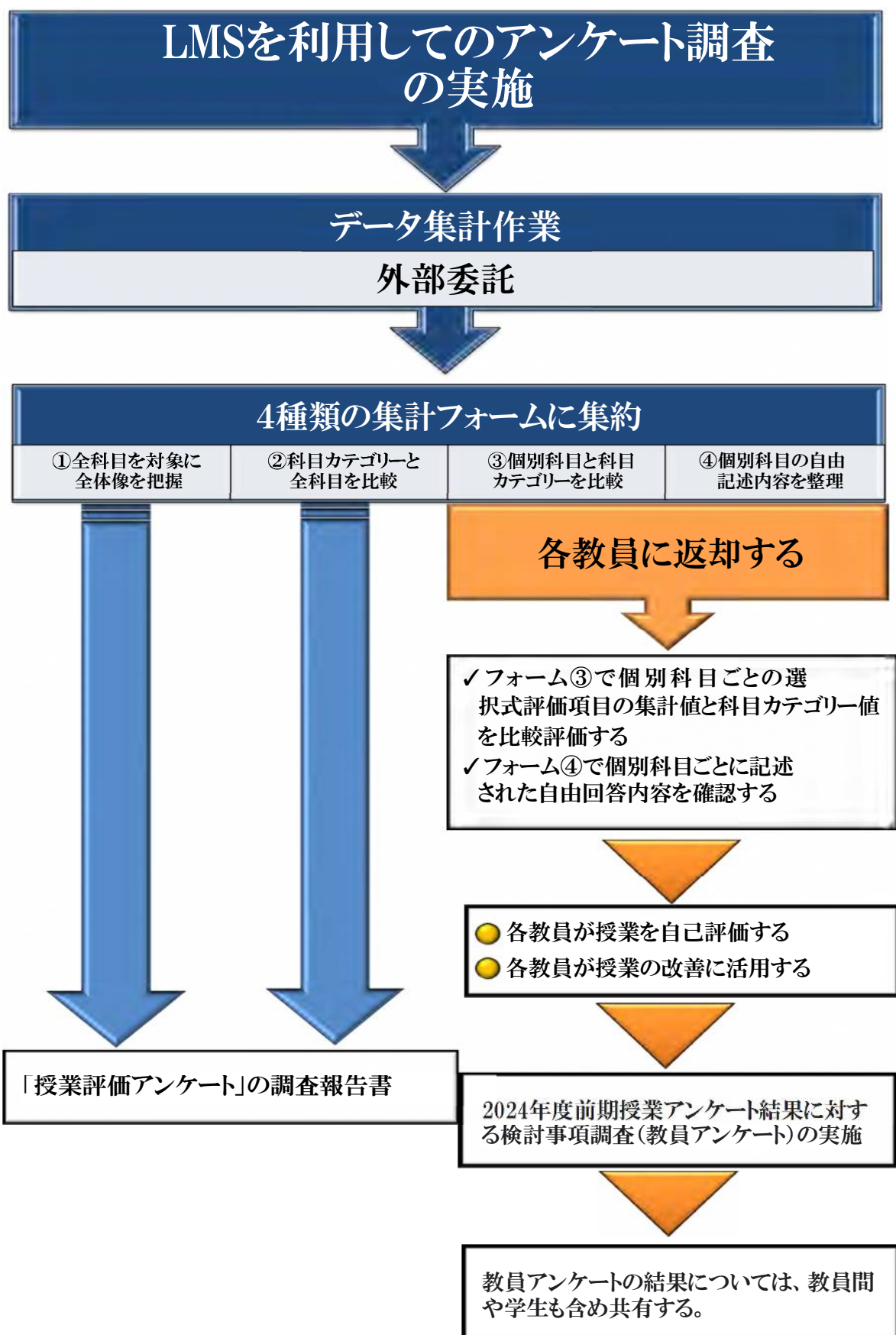
- 5 良い
- 4 どちらかといえば良い
- 3 どちらともいえない
- 2 どちらかといえば良くない
- 1 良くない

Q14. この科目の授業内容・方法について良かった点があれば記入してください。※特にない場合は空欄のまま提出してください。

Q15. この科目の授業内容・方法について改善を望む点があれば記入してください。※特にない場合は空欄のまま提出してください。

5. 調査結果の集計・分析と授業改善に向けた結果の活用について

既述したように、この調査の目的は各授業の成果・効果・到達点、さらに改善点などについて、学生から提供された授業の評価データを全科目、科目カテゴリー、教員個々を単位にして集計・分析し、結果を授業の自己点検・自己評価、授業改善のための参考資料として活用することにあります。今回のアンケート調査結果と授業改善に向けた活用の仕組みは以下の通りです。



6. 教員返却用集計フォーム

各教員に返却された前ページの集計フォーム③、④のサンプルを以下に掲げます。

授業アンケート結果集計表

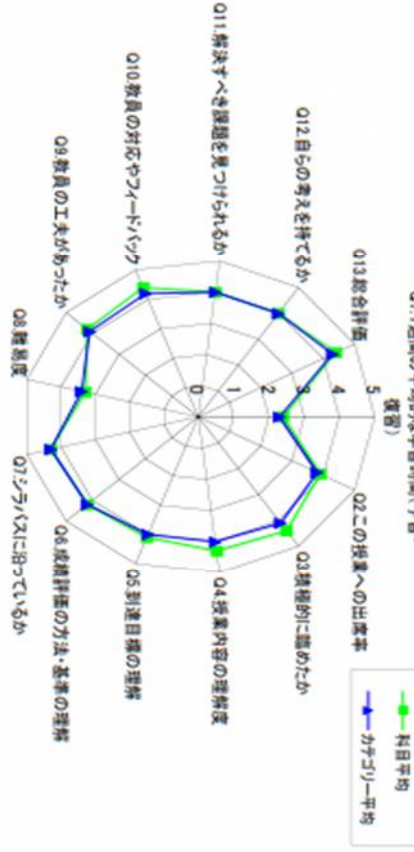
教員名		履修者数	40名
科目名		回収数	34枚
カテゴリー	(5) 専門関連科目	回収率	85.0 %

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。

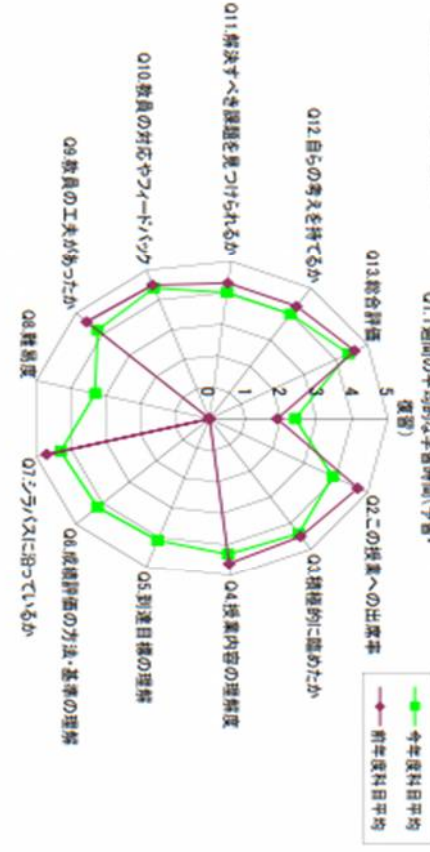
質問内容	上段: 平均値					下段: 標準偏差				
	5	4	3	2	1	当科目カテゴリー				
01. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	0 0.0%	8 23.5%	4 11.8%	17 50.0%	5 14.7%	2.4 1.01	2.3 1.02			
02. この授業への出席率	7 20.6%	16 47.1%	10 29.4%	1 2.9%	0 0.0%	3.9 0.77	3.8 0.81			
03. 積極的に臨めたか	17 50.0%	14 41.2%	3 8.8%	0 0.0%	0 0.0%	4.4 0.65	4.1 0.97			
04. 授業内容の理解度	15 44.1%	13 38.2%	6 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	4.3 0.74	4.0 1.02			
05. 到達目標の理解	14 41.2%	11 32.4%	8 23.5%	0 0.0%	1 2.9%	4.1 0.95	4.0 1.06			
06. 成績評価の方法・基準の理解	18 52.9%	10 29.4%	2 5.9%	2 5.9%	2 5.9%	4.2 1.15	4.2 1.00			
07. シラバスに沿っているか	16 47.1%	12 35.3%	6 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	4.3 0.75	4.3 0.91			
08. 難易度	1 2.9%	8 23.5%	24 70.6%	1 2.9%	0 0.0%	3.3 0.56	3.4 0.71			
09. 教員の工夫があったか	16 47.1%	12 35.3%	4 11.8%	1 2.9%	1 2.9%	4.2 0.96	4.1 0.99			
010. 教員の対応やフィードバック	17 50.0%	14 41.2%	2 5.9%	1 2.9%	0 0.0%	4.4 0.73	4.2 1.00			
011. 解決すべき課題を見つけれられるか	13 38.2%	11 32.4%	9 26.5%	0 0.0%	1 2.9%	4.0 0.95	4.0 1.03			
012. 自らの考えを持てるか	14 41.2%	11 32.4%	6 17.6%	2 5.9%	1 2.9%	4.0 1.04	4.0 1.05			
013. 総合評価	18 52.9%	12 35.3%	2 5.9%	2 5.9%	0 0.0%	4.4 0.84	4.3 0.97			

2024年度前期 北海医科大学

<評価シートチャート>



<評価値の経年変化>



自由記述一覧

2024年度前期 北海商科大学

教員名	○○○○
科目名	▲▲▲▲

Q14 この科目の授業内容・方法について良かった点があれば記入してください。※特になければ空欄のまま提出してください。

項 番	内 容
1	授業内容はとても難しいが、面白いと感じれた
2	自らで課題を発見する能力、またその課題を解決する能力が身に付いた。
3	グループワークメインで自分たちの興味あることを調べられるので、大学で勉強してるという実感が湧きます。チーム一体となることができるので、とても面白い講義です。後輩におすすめ!
4	先生のサポートが手厚く、自身の問題点を発見したり、技術が成長したりして、とても充実した時間を過ごすことができた。生徒一人ひとりに対して真摯に向き合ってくれた。

Q15 この科目の授業内容・方法について改善を望む点があれば記入してください。※特になければ空欄のまま提出してください。

項 番	内 容
1	意見がありませんでした。



II. 集計結果について

1. 全科目の単純集計結果について

ここでの集計表は、評価項目別の回答結果を単純に集計したものです。表では評価値として平均値を算出していますが、これは評価項目別に回答結果を評価点（1～5点）で加重平均したものです。また平均値の下段の標準偏差は、回答のバラツキの大小を表しています。各評価項目の平均値は「5」に近ければ良好な評価となり、標準偏差は小さければ回答のバラツキが小さいことを表します。したがって、評価平均値が「5」に近く標準偏差が小さいほど優良な評価を意味することになります。一方、レーダーチャートに表示されている平均値では、評価項目別の評価の良否と全評価項目のバランスを同時に検討することができます。

例年に比べ回収率が7割近くまで改善された結果、おそらく以前であればアンケートに答えなかった学生もアンケートに協力してくれたことになり、その精度はかなり高まったと思われます。この結果を有効に活用していくことが求められています。

(1) 学生の受講姿勢（Q1.～Q3.）について

Q1.～Q3. までは、学生の授業に対する受講姿勢に関する質問です。「Q1. 一週間の平均的な学習時間（予習・復習）」については昨年度よりもわずかですが向上が見られます。ただし、約9割の学生が「2時間未満」であるのは残念です。細かく分析すると、学習時間が「1時間未満」の層が減少しており、「全くしない」「1時間以上」が増加しています。つまり、勉強する層としない層との差がついたことになります。事実「4時間以上」の層も倍増しており、学習量の差が非常に広がっており、クロス集計を見ると、「2時間以上」の学習時間を確保した学生は「授業内容の理解度」について「理解できている」と回答した割合が87%を超えています。

また、「Q2. この授業への出席率」に関して、前年度平均値「4.7」から「3.9」へと大幅に下がってしまいました。これは、選択肢の内容を変更したことが影響していると思われます。具体的には、昨年までは「5 80%以上」「4 60%以上」…との選択肢でしたが、今回は「5 全出席」「4 9割程度」…となっており、出席率が同じでも平均値が低く出る選択肢となっています。この点をふまえると、学生の授業への出席率は昨年と大きく変わらないと考えられます。

上記で分析したことと関連すると思われるのが、「Q3. 積極的に臨めたか」の結果です。積極性に欠けたことになる割合は1割にも満たず、多くの学生が講義やゼミナールに対して積極的に参加したことがうかがえます。

傾向としては、授業にきちんと出席し積極的に参加する学生が大多数である一方、授業に参加しない学生、まったく学習時間を確保できていない学生の数も増えたことになります。

(2) 授業評価（Q4.～Q12.）について

9項目のうち8項目において、平均値は「3.9」を超え、標準偏差もほぼ「1.0」前後でした。もっとも差があった「Q12. 自らの考えを持てるか」についても標準偏差は「1.09」であり、この項目は語学などでは高い平均値を出すのは困難であり仕方ないものと思われます。唯一「3.4」であった質問は「Q8. 難易度」についてであり、これは高すぎるとかえって学生にとって難しすぎるということであり、普通からやや難しいことを意味する「3.5」前後が理想的と想定されます。というわけで、授業評価においてはおおむねよい評価を得ているといえるでしょう。詳しい分析は各科目カテゴリーにてなされます。

(3) 総合評価（Q13.）について

今年度から加えた項目であり、授業の総合評価を5段階で問うというもっともシンプルな設問となります。「5 良い」49.1%、「4 どちらかといえば良い」30.1%となり、圧倒的に評価を得ていることを示しています。「2 どちらかといえば良くない」「1 良くない」を選んだ学生は6.4%だけであり、全体としてみれば本学の授業は大旨学生から支持されていると言ってよいでしょう。

(4) 自由記述 (Q14, Q15) について

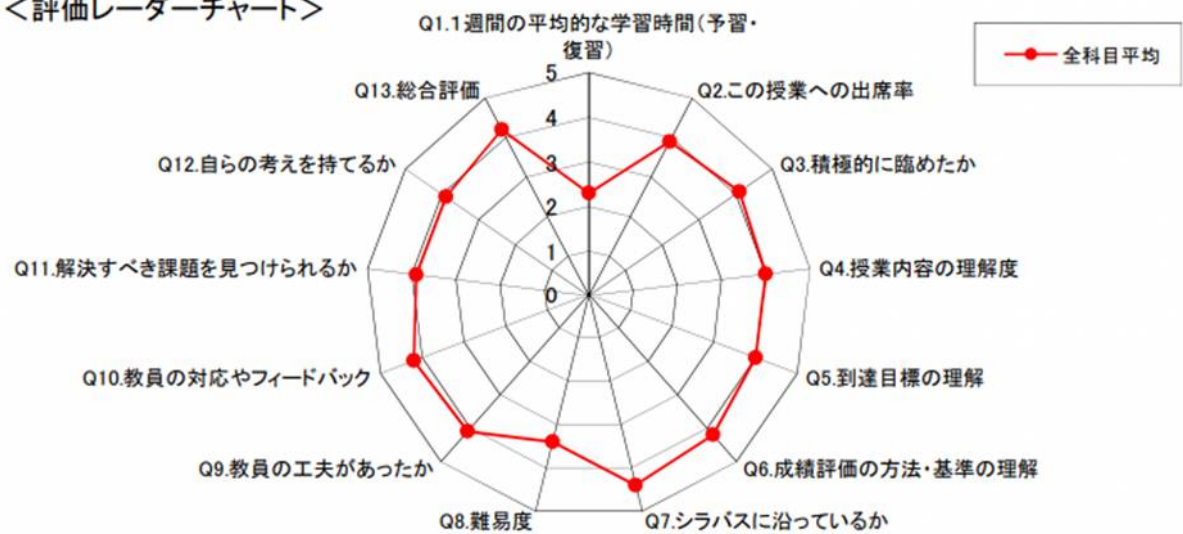
自由記述欄への回答に関しては全体で404 件の回答がありました。そのうち「Q14. この科目の授業内容・方法について良かった点」については218件、「Q15. この科目の授業内容・方法について改善を望む点」については186件です。これらの回答内容については、後述の科目カテゴリー別のアンケート結果欄において個別にコメントされます。

なお、既述の通りこれら自由回答欄の内容は「集計フォーム④」として整理され、「集計フォーム③」とともに各科目の担当教員に返却されており、今後の授業改善に向けた参考資料として活用されます。その後、2024年度前期授業アンケート結果に対する検討事項調査（教員アンケート）を実施し、その結果を教員間および学生も含めて情報共有し、教員のFD向上さらには学生の勉学の向上のための基礎資料として利活用していきます。

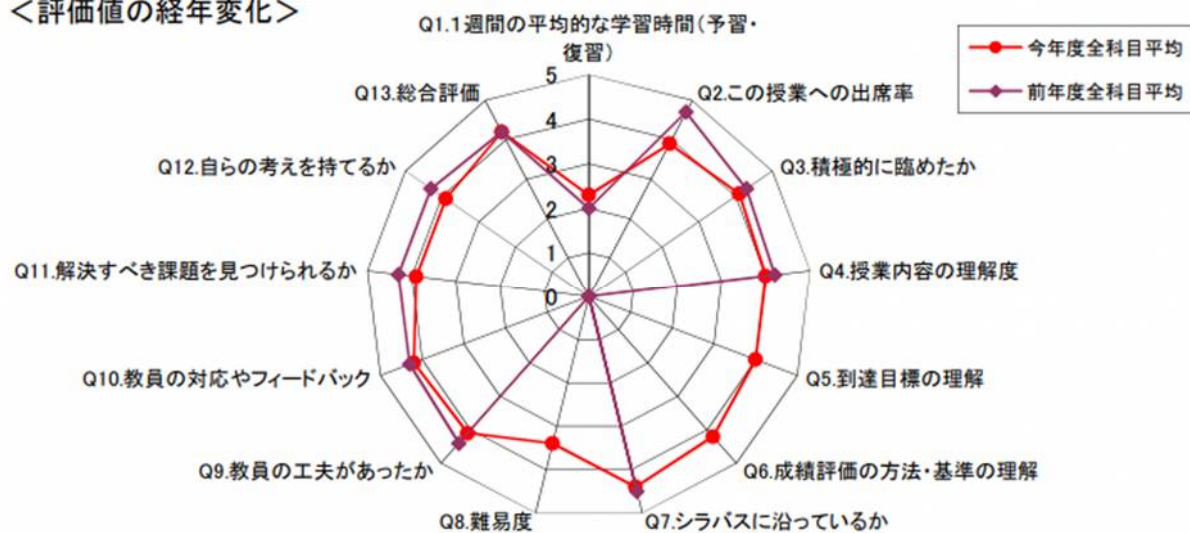
項目別回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。 上段:平均値 下段:標準偏差

質 問 内 容	5	4	3	2	1	全科目
Q1. 1 週間の平均的な学習時間（予習・復習）	99 3.0%	259 7.9%	859 26.1%	1313 39.9%	761 23.1%	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	908 27.6%	1398 42.5%	888 27.0%	73 2.2%	24 0.7%	3.9 0.84
Q3. 積極的に臨めたか	1391 42.3%	1198 36.4%	475 14.4%	171 5.2%	56 1.7%	4.1 0.96
Q4. 授業内容の理解度	1200 36.5%	1253 38.1%	511 15.5%	231 7.0%	96 2.9%	4.0 1.03
Q5. 到達目標の理解	1271 38.6%	1100 33.4%	574 17.4%	220 6.7%	126 3.8%	4.0 1.08
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	1649 50.1%	1024 31.1%	367 11.2%	166 5.0%	85 2.6%	4.2 1.00
Q7. シラバスに沿っているか	1853 56.3%	932 28.3%	369 11.2%	83 2.5%	54 1.6%	4.4 0.90
Q8. 難易度	230 7.0%	962 29.2%	1954 59.4%	116 3.5%	29 0.9%	3.4 0.71
Q9. 教員の工夫があったか	1454 44.2%	1080 32.8%	520 15.8%	152 4.6%	85 2.6%	4.1 1.00
Q10. 教員の対応やフィードバック	1667 50.7%	909 27.6%	512 15.6%	120 3.6%	83 2.5%	4.2 1.00
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	1192 36.2%	1079 32.8%	685 20.8%	222 6.7%	113 3.4%	3.9 1.07
Q12. 自らの考えを持てるか	1206 36.6%	1078 32.8%	648 19.7%	228 6.9%	131 4.0%	3.9 1.09
Q13. 総合評価	1616 49.1%	989 30.1%	473 14.4%	143 4.3%	70 2.1%	4.2 0.98

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



2. 各科目カテゴリーの単純集計結果について

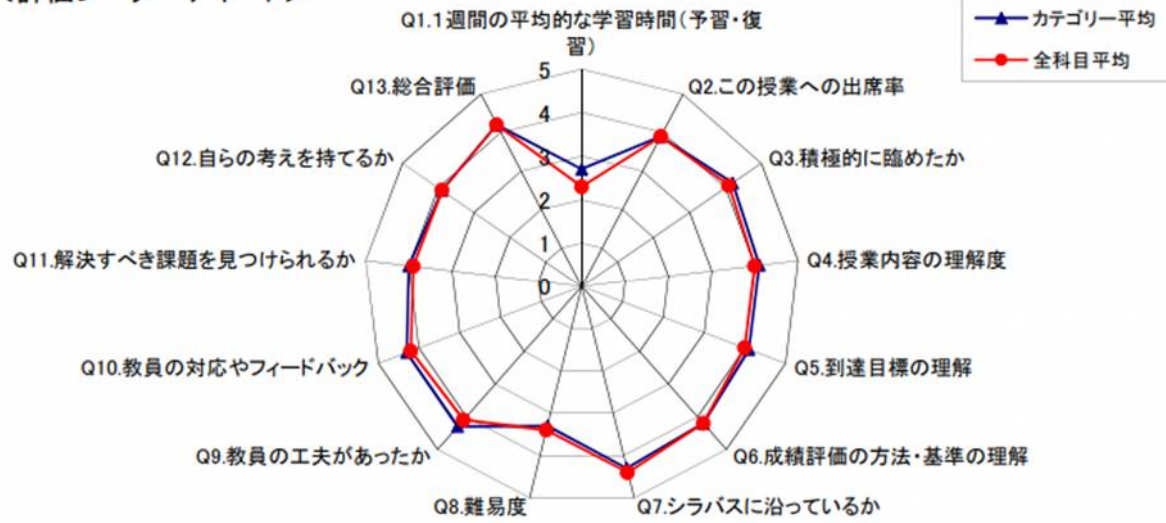
ここからは、科目カテゴリーごとに全科目との比較を通して単純集計結果を検討します。

<異文化交流科目：語学>

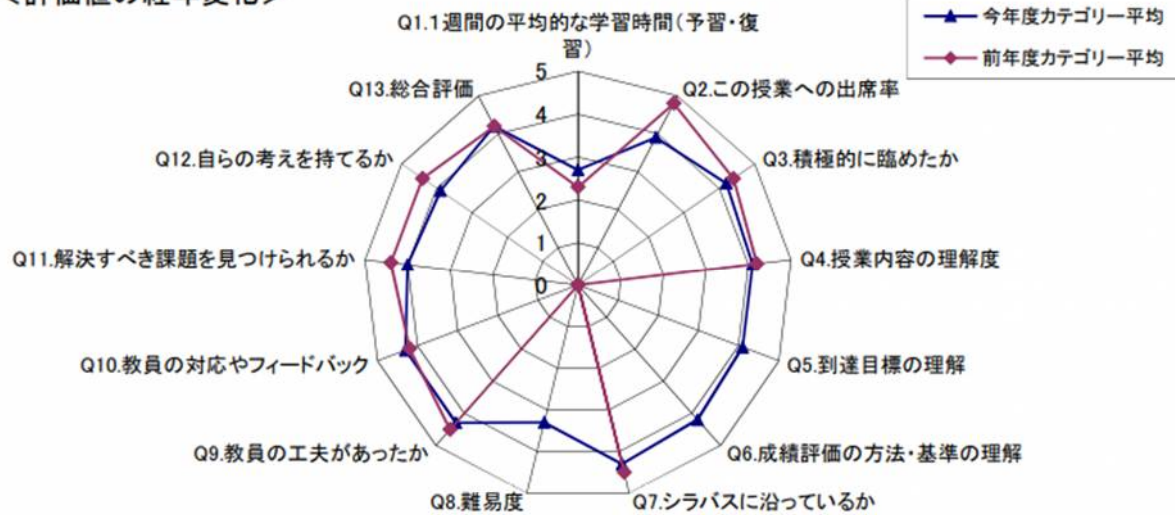
評価レーダーチャートより、異文化交流科目のうち語学における授業評価の全体的な傾向として、例年通りと言えます。「Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）」については、全科目平均よりも高くなっており、予習復習を通した反復学習が何より必要とされる語学においては、ある意味当然と言える結果ではあります。しかし、その背景として「Q9. 教員の工夫があったか」も他科目より高くなっている点は見逃すべきではありません。教員の工夫や努力により毎日継続して学習できるような配慮がなされているのだと考えられます。経年変化に目を移すと、新項目である「Q8. 難易度」を除きほぼ前年同様ですが、いくつかの項目で前年度を下回る評価になっています。ただし、その下回る質問「Q11. 解決すべき課題をみつけられるか」「Q12. 自らの考えを持てるか」は前年度の質問項目とは質問内容が微妙に変化しており、課題解決型の思考力を養う他の授業科目とは異なる語学の特性とはずれるため仕方がないとも言えます。全科目平均と同様に前年度との比較においても、学習時間の増加が見られた点は評価されるべきと思われます。自由記述において、どの語学においても「楽しかった」「おもしろかった」という記述が大半をしめており、なかでも「ネイティブとの交流」「実際にネイティブとの会話」についての喜びがとくに多く挙げられていました。また、「少人数なのでその場で分からない疑問点をすぐに解決できた」「先生がとても親身になってくれたので、楽しく学ぶ事ができた」「動画を利用した授業が役立つ」といった教員の熱意や工夫を学生が実感できている内容でした。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値	下段:標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目	
Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）	14 6.3%	36 16.2%	70 31.5%	76 34.2%	26 11.7%	2.7 1.07	2.3 1.00	
Q2. この授業への出席率	52 23.4%	104 46.8%	60 27.0%	4 1.8%	2 0.9%	3.9 0.80	3.9 0.84	
Q3. 積極的に臨めたか	109 49.1%	75 33.8%	23 10.4%	9 4.1%	6 2.7%	4.2 0.97	4.1 0.96	
Q4. 授業内容の理解度	91 41.0%	87 39.2%	30 13.5%	9 4.1%	5 2.3%	4.1 0.95	4.0 1.03	
Q5. 到達目標の理解	91 41.0%	83 37.4%	31 14.0%	9 4.1%	8 3.6%	4.1 1.01	4.0 1.08	
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	105 47.3%	76 34.2%	26 11.7%	7 3.2%	8 3.6%	4.2 1.00	4.2 1.00	
Q7. シラバスに沿っているか	126 56.8%	58 26.1%	27 12.2%	7 3.2%	4 1.8%	4.3 0.93	4.4 0.90	
Q8. 難易度	17 7.7%	57 25.7%	130 58.6%	18 8.1%	0 0.0%	3.3 0.73	3.4 0.71	
Q9. 教員の工夫があったか	117 52.7%	64 28.8%	32 14.4%	6 2.7%	3 1.4%	4.3 0.90	4.1 1.00	
Q10. 教員の対応やフィードバック	119 53.6%	60 27.0%	30 13.5%	9 4.1%	4 1.8%	4.3 0.96	4.2 1.00	
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	81 36.5%	84 37.8%	34 15.3%	18 8.1%	5 2.3%	4.0 1.02	3.9 1.07	
Q12. 自らの考えを持てるか	76 34.2%	80 36.0%	43 19.4%	19 8.6%	4 1.8%	3.9 1.02	3.9 1.09	
Q13. 総合評価	116 52.3%	59 26.6%	34 15.3%	8 3.6%	5 2.3%	4.2 0.99	4.2 0.98	

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



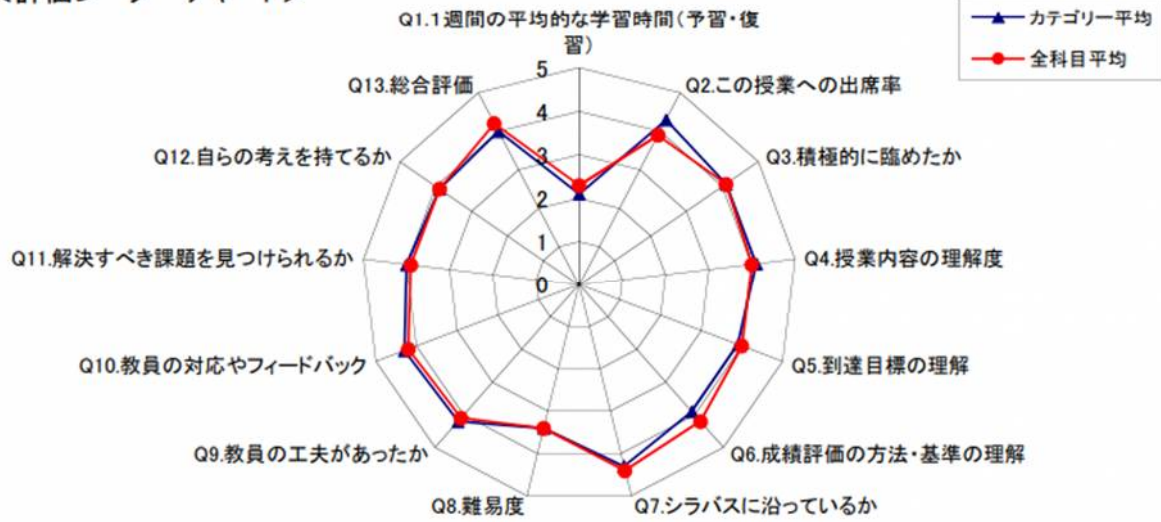
< 異文化交流科目：社会と文化（社会文化ゼミナール） >

「社会と文化」という科目区分の中で唯一のゼミナール科目であり、1年生のほぼ全員が履修する科目であるため、社会文化ゼミナールだけ抽出しました。しかし、評価レーダーチャートを見る限り全科目平均とカテゴリー平均に大きな差はなく、評価値の経年変化を見ても前年度のカテゴリー平均とほぼ同じ値になっています。

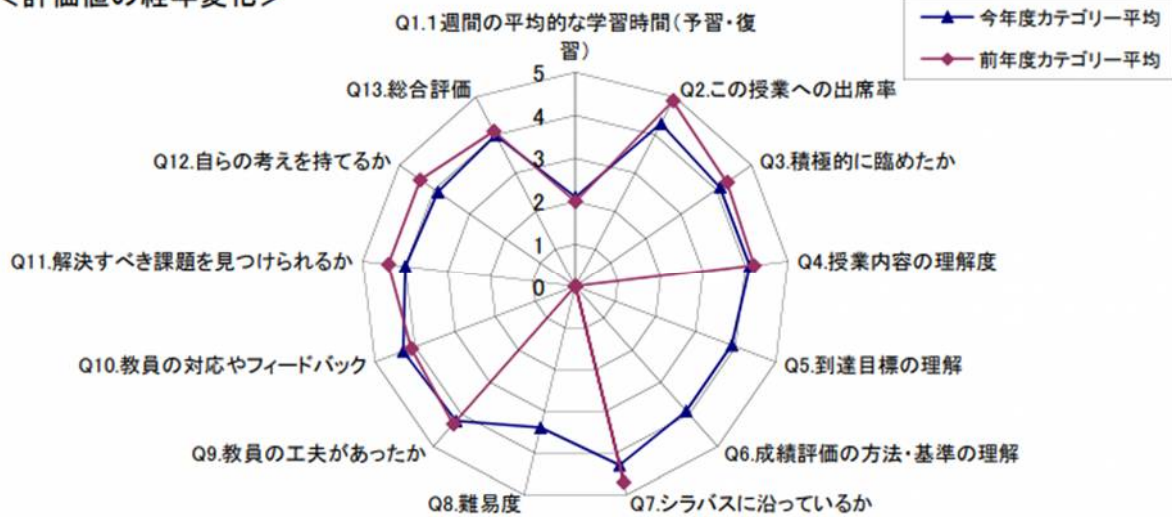
1年生のほぼ全員が履修し5週で講師が変わる形式のため、「それぞれの領域で目的がはっきりしていたので取り組みやすかった」という肯定的な記述が多くありました。キャリアプラン、ライティング、プレゼンテーションの各領域についても、「将来を考えるよい機会になった」、「書く力がついた」、「グループワークがよかった」等の素直な感想が多く見られました。ただし、「時間が足りない」といった意見も複数見られました。多くを詰め込みすぎた点は反省し、もう少し余裕ある授業展開に改善していく余地はありそうです。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段: 平均値
							下段: 標準偏差
質 問 内 容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）	15 2.1%	44 6.2%	176 24.8%	278 39.2%	196 27.6%	2.2 0.97	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	242 34.1%	295 41.6%	151 21.3%	14 2.0%	7 1.0%	4.1 0.85	3.9 0.84
Q3. 積極的に臨めたか	302 42.6%	254 35.8%	110 15.5%	30 4.2%	13 1.8%	4.1 0.95	4.1 0.96
Q4. 授業内容の理解度	260 36.7%	260 36.7%	118 16.6%	56 7.9%	15 2.1%	4.0 1.02	4.0 1.03
Q5. 到達目標の理解	243 34.3%	240 33.9%	144 20.3%	50 7.1%	32 4.5%	3.9 1.10	4.0 1.08
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	377 53.2%	198 27.9%	90 12.7%	31 4.4%	13 1.8%	4.3 0.96	4.2 1.00
Q7. シラバスに沿っているか	403 56.8%	198 27.9%	90 12.7%	9 1.3%	9 1.3%	4.4 0.85	4.4 0.90
Q8. 難易度	43 6.1%	173 24.4%	464 65.4%	23 3.2%	6 0.8%	3.3 0.67	3.4 0.71
Q9. 教員の工夫があったか	308 43.4%	236 33.3%	117 16.5%	36 5.1%	12 1.7%	4.1 0.97	4.1 1.00
Q10. 教員の対応やフィードバック	380 53.6%	190 26.8%	105 14.8%	19 2.7%	15 2.1%	4.3 0.95	4.2 1.00
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	258 36.4%	230 32.4%	164 23.1%	37 5.2%	20 2.8%	3.9 1.03	3.9 1.07
Q12. 自らの考えを持てるか	271 38.2%	236 33.3%	142 20.0%	39 5.5%	21 3.0%	4.0 1.03	3.9 1.09
Q13. 総合評価	360 50.8%	235 33.1%	81 11.4%	20 2.8%	13 1.8%	4.3 0.91	4.2 0.98

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



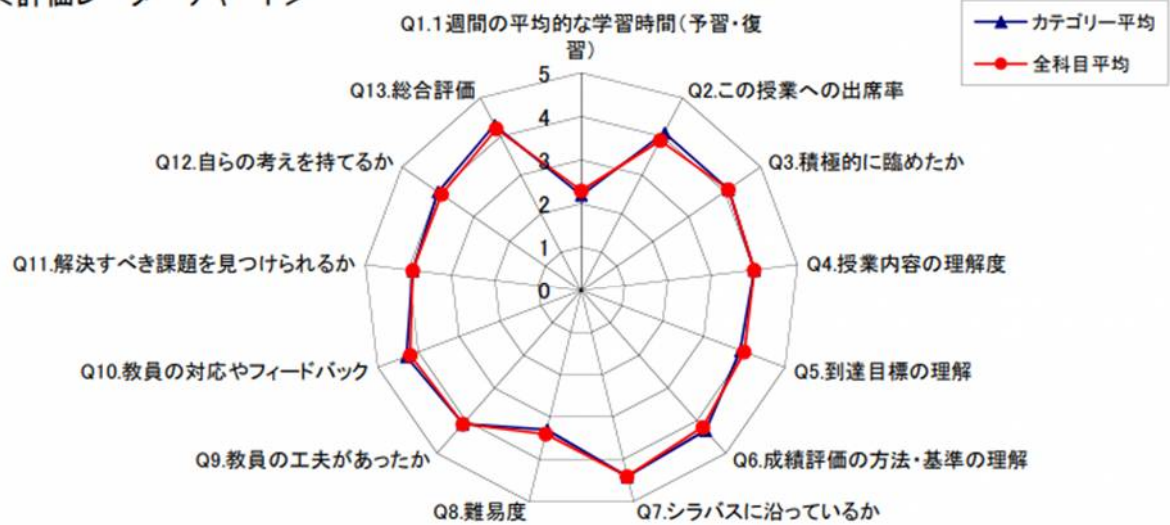
< 異文化交流科目：社会と文化（社会文化ゼミナール以外） >

異文化交流科目のうち、「社会文化ゼミナール」以外の「社会と文化」についての科目であり、講義形式の授業です。全科目平均と比較した場合、多くの項目で同様の結果であり、標準偏差を踏まえても全科目平均と差があると言える結果のものはありませんでした。経年変化では、「Q2.この授業への出席率」が前年度より低い結果になっていましたが、回答項目の変更があったためであり、前年度とほぼ同じ水準であると考えられます。出席率を高める努力は十分に反映されていると考えられます。「Q11.解決すべき課題を見つけられるか」・「Q12.自らの考えを持てるか」・「Q13.総合評価」で低評価を付けた学生は概ね「Q4.授業内容の理解度」で低評価を付けている傾向があります。やはり授業内容をしっかりと理解させる工夫が、学修成果や学生の満足度にとって重要であると言えます。

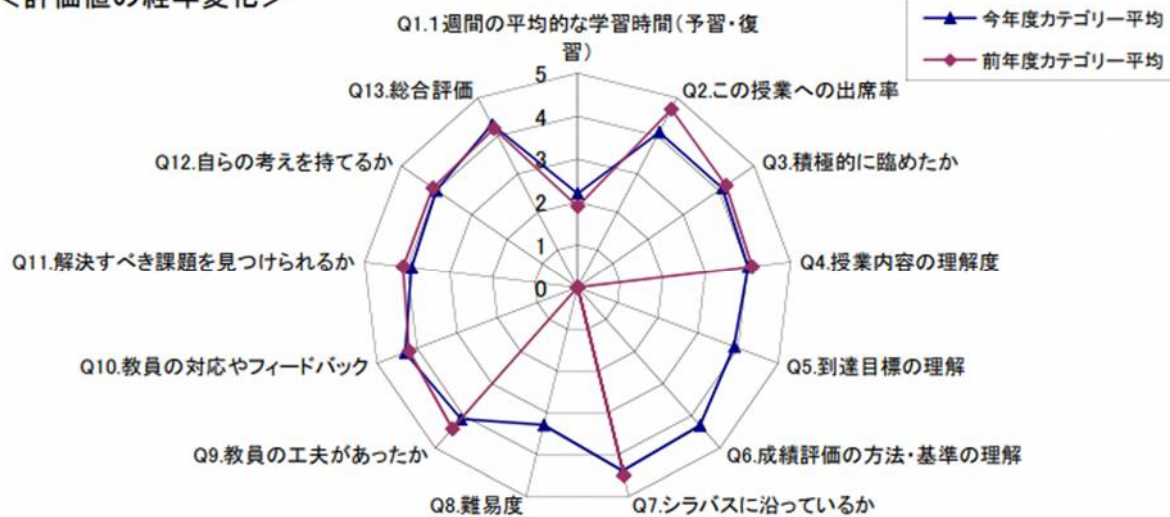
自由記述については、課題量や難易度への指摘などもありましたが、好意的な評価の方が多く見られました。授業の受け止め方は個人差もありますので、受講者の学習成果を高めるための各教員の取り組みは受講者に伝わっているものと思われます。ただ、私語や授業のサボりへの対処への言及も見られました。指摘されている事柄の放置は、その当事者にとって悪い結果につながるだけでなく、真面目に授業を受けている学生の不満、やる気を奪うことにもつながります。特にグループワークなどを用いて授業展開をしている場合は注意が必要です。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値 下段:標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）	15 2.1%	44 6.2%	176 24.8%	278 39.2%	196 27.6%	2.2 0.97	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	242 34.1%	295 41.6%	151 21.3%	14 2.0%	7 1.0%	4.1 0.85	3.9 0.84
Q3. 積極的に臨めたか	302 42.6%	254 35.8%	110 15.5%	30 4.2%	13 1.8%	4.1 0.95	4.1 0.96
Q4. 授業内容の理解度	260 36.7%	260 36.7%	118 16.6%	56 7.9%	15 2.1%	4.0 1.02	4.0 1.03
Q5. 到達目標の理解	243 34.3%	240 33.9%	144 20.3%	50 7.1%	32 4.5%	3.9 1.10	4.0 1.08
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	377 53.2%	198 27.9%	90 12.7%	31 4.4%	13 1.8%	4.3 0.96	4.2 1.00
Q7. シラバスに沿っているか	403 56.8%	198 27.9%	90 12.7%	9 1.3%	9 1.3%	4.4 0.85	4.4 0.90
Q8. 難易度	43 6.1%	173 24.4%	464 65.4%	23 3.2%	6 0.8%	3.3 0.67	3.4 0.71
Q9. 教員の工夫があったか	308 43.4%	236 33.3%	117 16.5%	36 5.1%	12 1.7%	4.1 0.97	4.1 1.00
Q10. 教員の対応やフィードバック	380 53.6%	190 26.8%	105 14.8%	19 2.7%	15 2.1%	4.3 0.95	4.2 1.00
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	258 36.4%	230 32.4%	164 23.1%	37 5.2%	20 2.8%	3.9 1.03	3.9 1.07
Q12. 自らの考えを持てるか	271 38.2%	236 33.3%	142 20.0%	39 5.5%	21 3.0%	4.0 1.03	3.9 1.09
Q13. 総合評価	360 50.8%	235 33.1%	81 11.4%	20 2.8%	13 1.8%	4.3 0.91	4.2 0.98

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



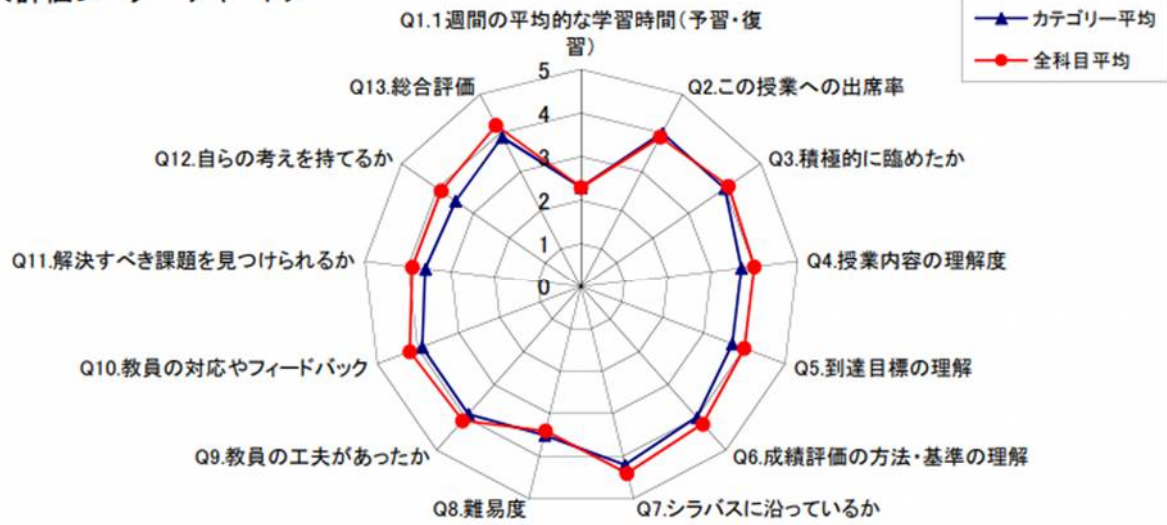
< 専門基礎科目 >

専門基礎科目は全科目（データサイエンス・AI論、経済システム理論I、経済と社会のしくみI、コンピューター・リテラシー）が必修科目となっています。またいずれも、複数教員が分担する形で講義を実施しています。＜評価レーダーチャート＞を見ると、専門基礎科目では全科目平均の評価を下回る項目が多くなっています。一方で、＜評価値の経年変化＞については、今回から質問項目や選択肢が変わったため、結果の解釈は次回以降に行いたいと思います。

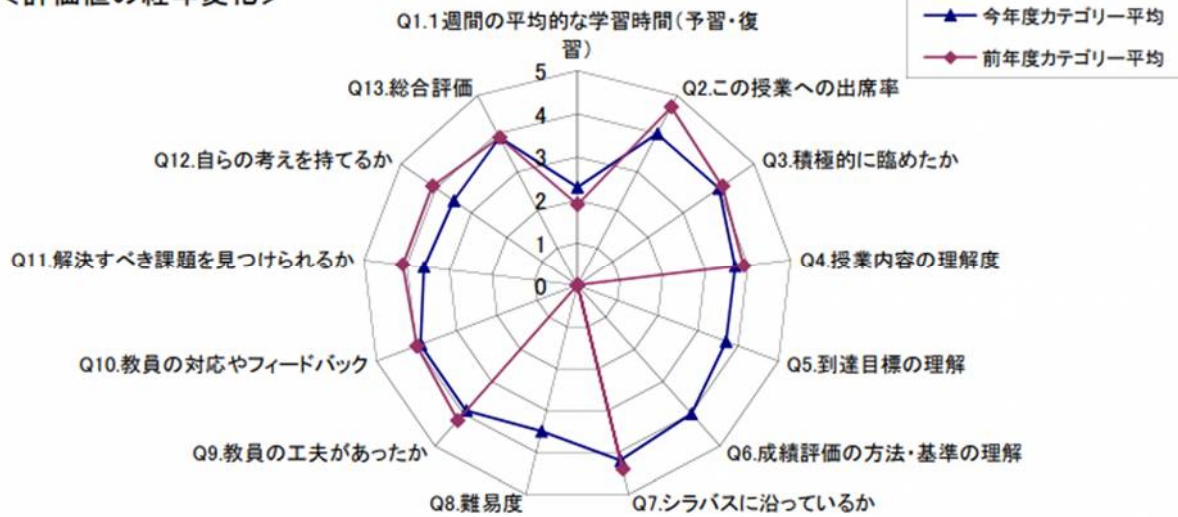
自由記述欄を見ると、良かった点として、スライド、動画、オンライン教材の活用、丁寧な説明・指導、達成すべき課題の明確化などがあげられていました。学生の理解を増進する工夫を引き続き取り入れていくことが、学生の理解度・満足度を高めるために有効と考えられます。今後、改善してほしい点として、同じ科目でもクラスによって、出席確認や試験の方法が異なることが指摘されています。経済と社会の仕組みIでは、今年度からオムニバス形式での講義を取り入れ、担当教員（クラス）による試験の難易度の違いなどの不公平感の解消に取り組みました。しかし、教員間での授業や試験の実施方法の差についての不満が見られたことから、教員間で講義の到達目標などを改めて確認・共有する必要があると考えられます。

回答分布（人数と平均値・標準偏差） ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段：平均値 下段：標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）	18 3.2%	40 7.1%	170 30.2%	211 37.5%	124 22.0%	2.3 1.00	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	191 33.9%	206 36.6%	146 25.9%	15 2.7%	5 0.9%	4.0 0.89	3.9 0.84
Q3. 積極的に臨めたか	199 35.3%	206 36.6%	109 19.4%	41 7.3%	8 1.4%	4.0 0.98	4.1 0.96
Q4. 授業内容の理解度	146 25.9%	198 35.2%	129 22.9%	65 11.5%	25 4.4%	3.7 1.11	4.0 1.03
Q5. 到達目標の理解	167 29.7%	184 32.7%	122 21.7%	62 11.0%	28 5.0%	3.7 1.15	4.0 1.08
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	221 39.3%	200 35.5%	73 13.0%	51 9.1%	18 3.2%	4.0 1.08	4.2 1.00
Q7. シラバスに沿っているか	272 48.3%	181 32.1%	79 14.0%	17 3.0%	14 2.5%	4.2 0.96	4.4 0.90
Q8. 難易度	54 9.6%	227 40.3%	258 45.8%	17 3.0%	7 1.2%	3.5 0.76	3.4 0.71
Q9. 教員の工夫があったか	194 34.5%	191 33.9%	118 21.0%	35 6.2%	25 4.4%	3.9 1.09	4.1 1.00
Q10. 教員の対応やフィードバック	215 38.2%	157 27.9%	134 23.8%	32 5.7%	25 4.4%	3.9 1.11	4.2 1.00
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	147 26.1%	158 28.1%	157 27.9%	65 11.5%	36 6.4%	3.6 1.18	3.9 1.07
Q12. 自らの考えを持てるか	143 25.4%	147 26.1%	158 28.1%	75 13.3%	40 7.1%	3.5 1.20	3.9 1.09
Q13. 総合評価	203 36.1%	180 32.0%	117 20.8%	40 7.1%	23 4.1%	3.9 1.10	4.2 0.98

＜評価レーダーチャート＞



＜評価値の経年変化＞



< 専門関連科目 >

専門関連科目は、商学科・観光産業学科の専門科目に関連した科目となっており、幅広い内容の科目が含まれています。＜評価レーダーチャート＞を見ると、専門関連科目の評価は、全科目平均とほぼ一致しています。＜評価値の経年変化＞については、今回から質問項目や選択肢が変わったため、結果の解釈は次回以降に行いたいと思います。

自由記述欄を見ると、良かった点として、動画の活用など教材の工夫、学生との活発なコミュニケーション、グループワーク・資料作成・プレゼンなどのアクティブラーニング導入などがあげられていました。また、少人数教育の特性を生かし、教員と密にやり取りをする取り組みが高く評価されているようです。一方で、今後、改善してほしい点は、理解促進のための例題を増やしてほしい、資料を配布してほしい、講義時間を遵守してほしいなど多岐にわたりました。教員は各講義の授業アンケート結果に基づいた対応が必要と考えられます。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。

質問内容						上段:平均値	
	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）	37 3.6%	81 8.0%	239 23.5%	418 41.1%	241 23.7%	2.3 1.02	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	190 18.7%	437 43.0%	354 34.8%	28 2.8%	7 0.7%	3.8 0.81	3.9 0.84
Q3. 積極的に臨めたか	420 41.3%	376 37.0%	147 14.5%	53 5.2%	20 2.0%	4.1 0.97	4.1 0.96
Q4. 授業内容の理解度	385 37.9%	412 40.6%	129 12.7%	54 5.3%	36 3.5%	4.0 1.02	4.0 1.03
Q5. 到達目標の理解	393 38.7%	351 34.5%	175 17.2%	61 6.0%	36 3.5%	4.0 1.06	4.0 1.08
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	524 51.6%	318 31.3%	103 10.1%	39 3.8%	32 3.1%	4.2 1.00	4.2 1.00
Q7. シラバスに沿っているか	577 56.8%	281 27.7%	109 10.7%	33 3.2%	16 1.6%	4.3 0.91	4.4 0.90
Q8. 難易度	76 7.5%	291 28.6%	608 59.8%	31 3.1%	10 1.0%	3.4 0.71	3.4 0.71
Q9. 教員の工夫があったか	455 44.8%	336 33.1%	156 15.4%	42 4.1%	27 2.7%	4.1 0.99	4.1 1.00
Q10. 教員の対応やフィードバック	528 52.0%	279 27.5%	143 14.1%	40 3.9%	26 2.6%	4.2 1.00	4.2 1.00
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	398 39.2%	324 31.9%	210 20.7%	56 5.5%	28 2.8%	4.0 1.03	3.9 1.07
Q12. 自らの考えを持てるか	403 39.7%	354 34.8%	174 17.1%	45 4.4%	40 3.9%	4.0 1.05	3.9 1.09
Q13. 総合評価	539 53.1%	278 27.4%	134 13.2%	49 4.8%	16 1.6%	4.3 0.97	4.2 0.98

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>

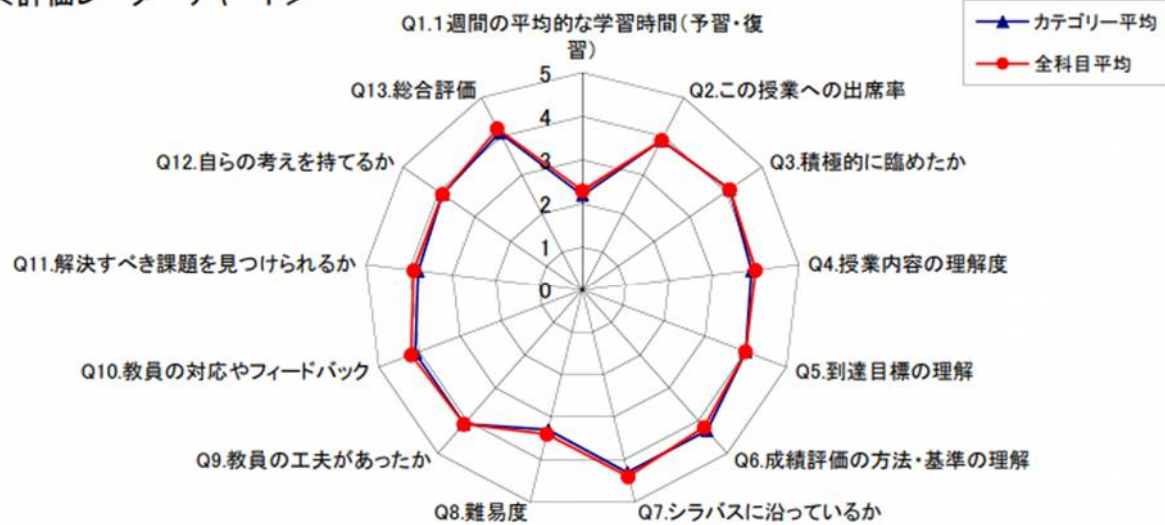


< 商学科専門科目 >

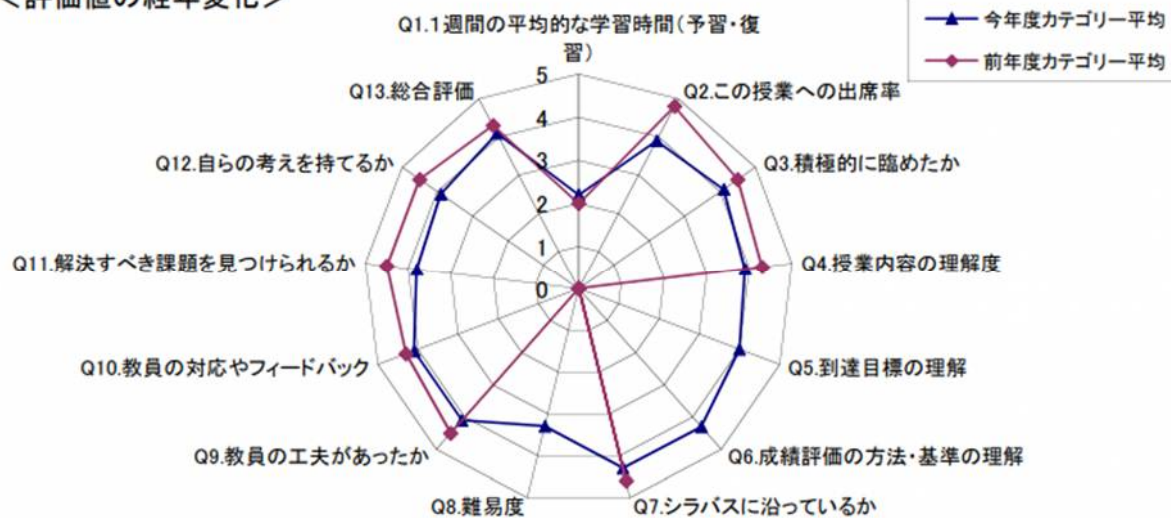
評価レーダーチャートより、カテゴリー平均は、全科目平均よりも同等か若干下回る傾向が見て取れますが、「Q6.成績評価の方法・基準の理解」が、全科目平均よりもカテゴリー平均が高いという結果になりました。評価値の経年変化より、昨年度カテゴリー平均より、多くの項目において、今年度カテゴリー平均が下回っていました。自由記述欄において、「良かった点」は、5件のみでした。また、「改善して欲しい点」は、9件あり、「(生成系AIを用いたレポート等に対する)評価の不適切さ」や「授業時間の不適切さ」などに関する回答が目立ちました。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値
質問内容							下段:標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	1 0.4%	22 9.6%	59 25.8%	90 39.3%	57 24.9%	2.2 0.94	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	59 25.8%	99 43.2%	65 28.4%	4 1.7%	2 0.9%	3.9 0.83	3.9 0.84
Q3. 積極的に臨めたか	101 44.1%	78 34.1%	31 13.5%	14 6.1%	5 2.2%	4.1 1.00	4.1 0.96
Q4. 授業内容の理解度	79 34.5%	84 36.7%	37 16.2%	22 9.6%	7 3.1%	3.9 1.08	4.0 1.03
Q5. 到達目標の理解	99 43.2%	77 33.6%	28 12.2%	13 5.7%	12 5.2%	4.0 1.12	4.0 1.08
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	120 52.4%	75 32.8%	18 7.9%	10 4.4%	6 2.6%	4.3 0.97	4.2 1.00
Q7. シラバスに沿っているか	127 55.5%	69 30.1%	17 7.4%	8 3.5%	8 3.5%	4.3 0.99	4.4 0.90
Q8. 難易度	12 5.2%	67 29.3%	139 60.7%	9 3.9%	2 0.9%	3.3 0.68	3.4 0.71
Q9. 教員の工夫があったか	102 44.5%	78 34.1%	26 11.4%	11 4.8%	12 5.2%	4.1 1.10	4.1 1.00
Q10. 教員の対応やフィードバック	108 47.2%	68 29.7%	35 15.3%	8 3.5%	10 4.4%	4.1 1.07	4.2 1.00
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	77 33.6%	82 35.8%	39 17.0%	18 7.9%	13 5.7%	3.8 1.14	3.9 1.07
Q12. 自らの考えを持てるか	83 36.2%	77 33.6%	41 17.9%	17 7.4%	11 4.8%	3.9 1.12	3.9 1.09
Q13. 総合評価	108 47.2%	68 29.7%	37 16.2%	9 3.9%	7 3.1%	4.1 1.02	4.2 0.98

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>

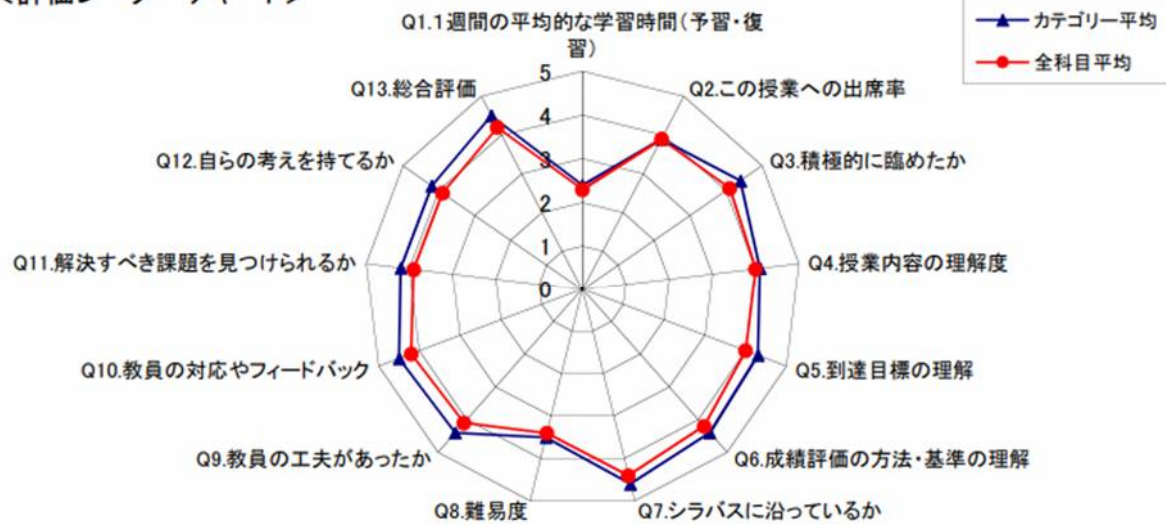


< 観光産業学科専門科目 >

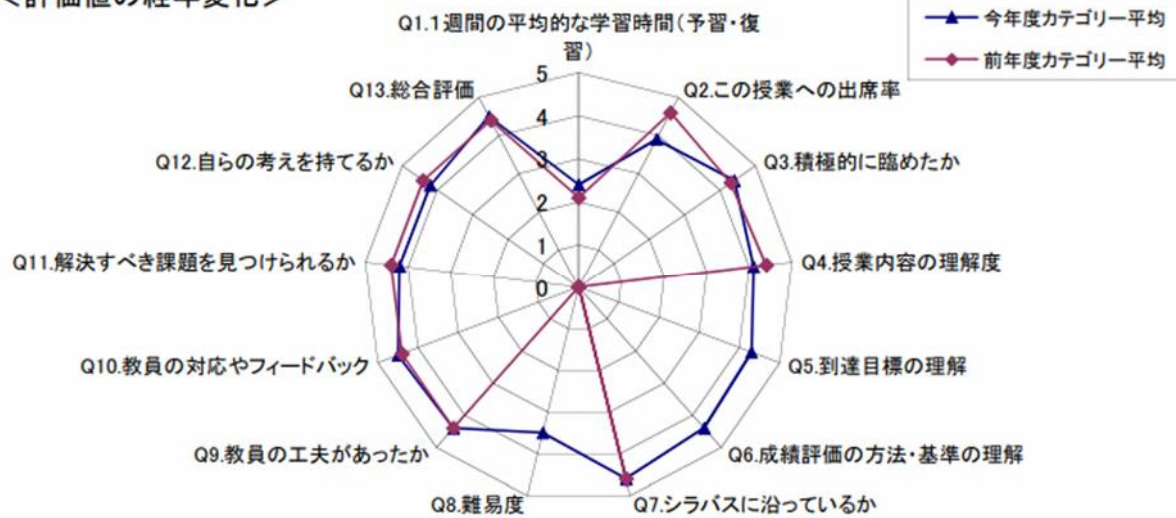
評価レーダーチャートより、カテゴリー平均は、ほぼすべての項目において全科目平均よりも高い結果となりました。「Q3. 積極的に臨めたか」が4.4、「Q5. 到達目標の理解」が4.3、「Q6. 成績評価の方法・基準の理解」が4.4、「Q7. シラバスに沿っているか」が4.6など、高い評価を得ています。また、これらの項目は、評価値の経年変化でみても、前年度カテゴリー平均よりも上回っています。自由記述欄において「良かった点」は、6件ありました。目標設定によるモチベーション向上に関する記述がありました。また、「改善して欲しい点」は、8件あり、進行速度、評価方法、教室環境など、多岐にわたりましたが、これらの大半は個々の教員による改善により解消できる内容が多くありました。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段: 平均値
							下段: 標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	7 5.9%	11 9.2%	26 21.8%	50 42.0%	25 21.0%	2.4 1.09	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	22 18.5%	68 57.1%	27 22.7%	1 0.8%	1 0.8%	3.9 0.72	3.9 0.84
Q3. 積極的に臨めたか	65 54.6%	40 33.6%	12 10.1%	0 0.0%	2 1.7%	4.4 0.80	4.1 0.96
Q4. 授業内容の理解度	51 42.9%	41 34.5%	19 16.0%	4 3.4%	4 3.4%	4.1 1.01	4.0 1.03
Q5. 到達目標の理解	65 54.6%	33 27.7%	14 11.8%	4 3.4%	3 2.5%	4.3 0.97	4.0 1.08
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	75 63.0%	27 22.7%	12 10.1%	2 1.7%	3 2.5%	4.4 0.92	4.2 1.00
Q7. シラバスに沿っているか	85 71.4%	22 18.5%	7 5.9%	4 3.4%	1 0.8%	4.6 0.82	4.4 0.90
Q8. 難易度	10 8.4%	40 33.6%	67 56.3%	2 1.7%	0 0.0%	3.5 0.67	3.4 0.71
Q9. 教員の工夫があったか	73 61.3%	24 20.2%	17 14.3%	2 1.7%	3 2.5%	4.4 0.96	4.1 1.00
Q10. 教員の対応やフィードバック	83 69.7%	20 16.8%	11 9.2%	3 2.5%	2 1.7%	4.5 0.89	4.2 1.00
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	58 48.7%	39 32.8%	17 14.3%	3 2.5%	2 1.7%	4.2 0.91	3.9 1.07
Q12. 自らの考えを持てるか	56 47.1%	40 33.6%	12 10.1%	10 8.4%	1 0.8%	4.2 0.98	3.9 1.09
Q13. 総合評価	76 63.9%	29 24.4%	9 7.6%	4 3.4%	1 0.8%	4.5 0.84	4.2 0.98

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



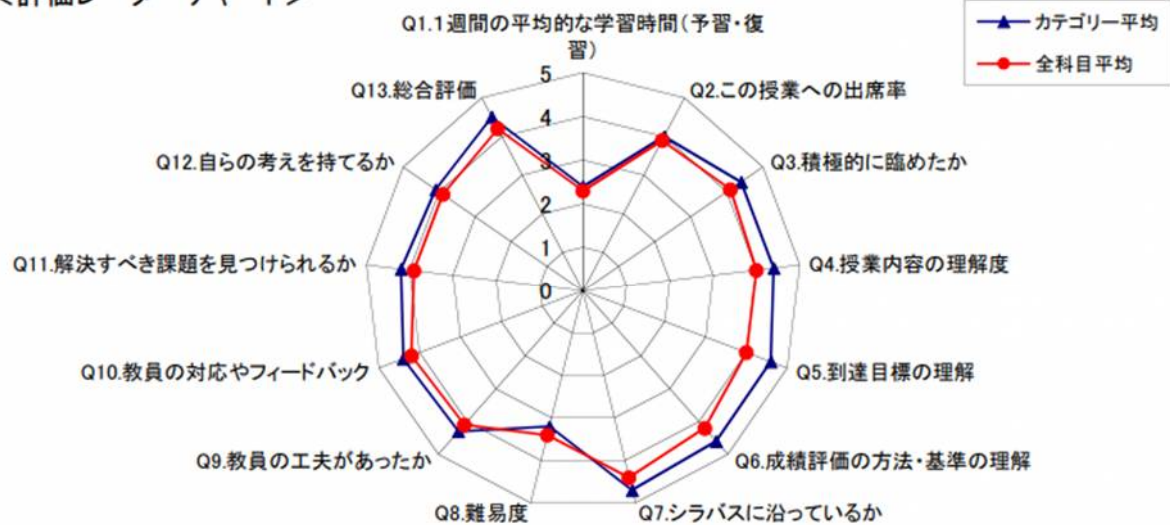
<専門キャリアアップ科目>

評価レーダーチャートより、カテゴリー平均は、前回と同様、ほぼ全項目において全科目平均よりも高い結果となりました。このカテゴリーは資格試験を意識したキャリアアップを目指す科目群であり、「Q3.積極的に臨めたか」、「Q4.授業内容の理解度」、「Q5.到達目標の理解度」など、内容の習得に関わる項目で、特に高い評価値となっています。また、「Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)」については、今年度の全科目平均と比較してもやや高いだけでなく、前回と比較しても上昇しています。授業の時間以外での学習する工夫が功を奏したと考えられます。

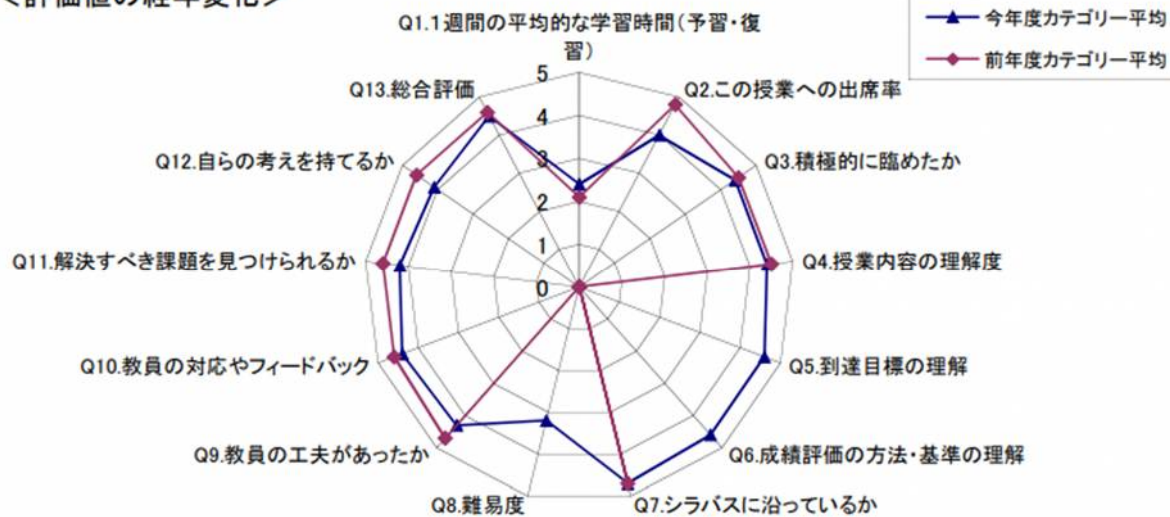
自由記述には、学習内容の理解度向上や定着の工夫を評価するコメントが見られる一方、試験や遅刻、欠席に関する公平性を厳格に求めたいと指摘するものがありました。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値
							下段:標準偏差
質 問 内 容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	3 1.7%	11 6.3%	58 33.3%	78 44.8%	24 13.8%	2.4 0.86	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	42 24.1%	98 56.3%	33 19.0%	1 0.6%	0 0.0%	4.0 0.67	3.9 0.84
Q3. 積極的に臨めたか	97 55.7%	61 35.1%	10 5.7%	6 3.4%	0 0.0%	4.4 0.75	4.1 0.96
Q4. 授業内容の理解度	95 54.6%	64 36.8%	9 5.2%	4 2.3%	2 1.1%	4.4 0.79	4.0 1.03
Q5. 到達目標の理解	117 67.2%	47 27.0%	7 4.0%	1 0.6%	2 1.1%	4.6 0.70	4.0 1.08
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	118 67.8%	49 28.2%	6 3.4%	1 0.6%	0 0.0%	4.6 0.58	4.2 1.00
Q7. シラバスに沿っているか	133 76.4%	38 21.8%	3 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	4.7 0.48	4.4 0.90
Q8. 難易度	9 5.2%	40 23.0%	112 64.4%	11 6.3%	2 1.1%	3.2 0.70	3.4 0.71
Q9. 教員の工夫があったか	96 55.2%	53 30.5%	15 8.6%	9 5.2%	1 0.6%	4.3 0.88	4.1 1.00
Q10. 教員の対応やフィードバック	99 56.9%	56 32.2%	14 8.0%	4 2.3%	1 0.6%	4.4 0.78	4.2 1.00
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	86 49.4%	56 32.2%	19 10.9%	8 4.6%	5 2.9%	4.2 1.00	3.9 1.07
Q12. 自らの考えを持てるか	81 46.6%	51 29.3%	30 17.2%	3 1.7%	9 5.2%	4.1 1.08	3.9 1.09
Q13. 総合評価	109 62.6%	51 29.3%	10 5.7%	2 1.1%	2 1.1%	4.5 0.76	4.2 0.98

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



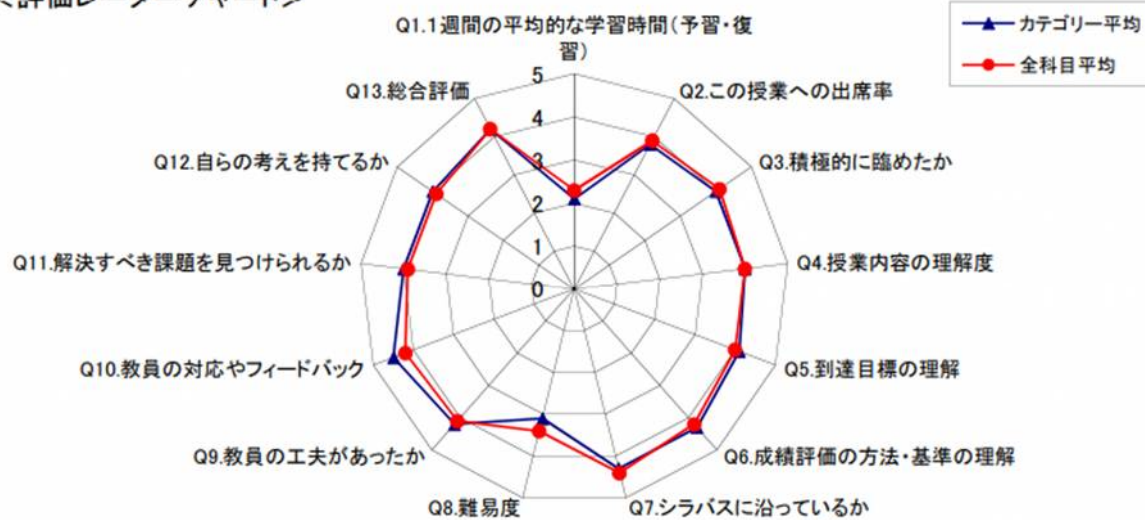
< 教職科目に関する科目 >

評価レーダーチャートの全科目平均との比較より、このカテゴリーの平均は、全科目平均とほぼ同程度の結果となりました。±0.3以上の差は「Q8. 難易度」(カテゴリー平均3.1, 全科目平均3.4)と「Q10. フィードバック」(カテゴリー平均4.5, 全科目平均4.2)で見られており、前者は全科目平均よりも低く、後者は高くなっています。一方、経年変化より、「Q7. シラバスに沿っているか」、「Q9. 教員の工夫があったか」、「Q10. フィードバック」以外の項目では、全体的に低下していました。今年度、教職課程の担当教員が2名とも新任教員となり、授業の方法や内容が少なからず変わったことを踏まえると、これらの結果は、学生が新任教員の授業の工夫やフィードバックを好ましく思いながらも、変化に戸惑っていたことを反映していると考えられます。学生の認識との相違を埋める取り組みが必要となるでしょう。

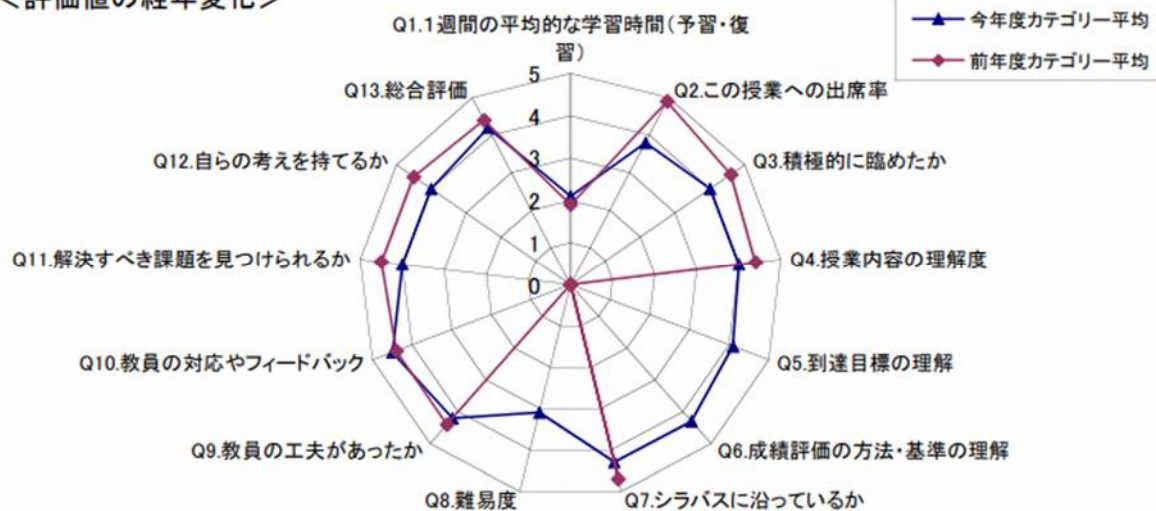
なお、自由記述には、スケジュールの変更や、教室の気温に関する要望等が挙がっていました。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段: 平均値
							下段: 標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	2 2.5%	5 6.3%	17 21.5%	31 39.2%	24 30.4%	2.1 0.99	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	13 16.5%	42 53.2%	22 27.8%	2 2.5%	0 0.0%	3.8 0.72	3.9 0.84
Q3. 積極的に臨めたか	35 44.3%	22 27.8%	9 11.4%	11 13.9%	2 2.5%	4.0 1.16	4.1 0.96
Q4. 授業内容の理解度	32 40.5%	26 32.9%	12 15.2%	9 11.4%	0 0.0%	4.0 1.01	4.0 1.03
Q5. 到達目標の理解	40 50.6%	17 21.5%	11 13.9%	10 12.7%	1 1.3%	4.1 1.12	4.0 1.08
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	45 57.0%	18 22.8%	11 13.9%	4 5.1%	1 1.3%	4.3 0.97	4.2 1.00
Q7. シラバスに沿っているか	46 58.2%	19 24.1%	9 11.4%	4 5.1%	1 1.3%	4.3 0.95	4.4 0.90
Q8. 難易度	2 2.5%	7 8.9%	67 84.8%	3 3.8%	0 0.0%	3.1 0.47	3.4 0.71
Q9. 教員の工夫があったか	41 51.9%	20 25.3%	9 11.4%	9 11.4%	0 0.0%	4.2 1.03	4.1 1.00
Q10. 教員の対応やフィードバック	52 65.8%	16 20.3%	8 10.1%	3 3.8%	0 0.0%	4.5 0.82	4.2 1.00
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	34 43.0%	24 30.4%	13 16.5%	6 7.6%	2 2.5%	4.0 1.06	3.9 1.07
Q12. 自らの考えを持てるか	37 46.8%	19 24.1%	15 19.0%	5 6.3%	3 3.8%	4.0 1.12	3.9 1.09
Q13. 総合評価	45 57.0%	13 16.5%	15 19.0%	6 7.6%	0 0.0%	4.2 1.01	4.2 0.98

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



北海商科大学 教育方法改善委員会

〒062-8607

札幌市豊平区豊平6条6丁目10番

代表 (011) 841-1161